

国語 解答一覧

答え		問題番号				ユニット
問四	問三	問二	問一			
③ (例)おり	② (例)申し(上げ)	① なざる (例)お聞きになる・聞きなざる	③ ウ・エ 特殊	① 主観	③ ア	① イ
				② 帰納	④ ア	② ア
現代文・知識 2						

答え		問題番号				ユニット
問四	問三			問二	問一	
⑤ 肩	③ 目	① 手	④ ることはできない。 (例)危険をおかさなければ、大きな成功を手にすることはできない。	③ いものかわりとして使うことができる。 (例)大きいものは、小さいものかわりとして使うことができる。	② には、反抗せず従っておくほうが得である。 (例)権力や勢力のある者には、反抗せず従っておく。	① み心地がよく思えてくる。 (例)どんなにへんぴで不便な所でも、慣れると住み心地がよく思えてくる。
	④ 足	② 鼻			③ 公明	① 一騎
					⑦ 撤回	⑤ 衰弱
					③ 歴然	③ 綿密
					② 意気	⑧ 想像
						⑥ 迷惑
						④ 綿密
						② 処理
						① 要旨
現代文・知識 1						

答え		問題番号				ユニット
問四	問三	問二	問一			
エ	(2) ウ	(1) イ	C 反省	B 自分の責任	A まう	
					何でも他人の罪にしてし	
					(例)他罪主義に移行した	
現代文・読解 5						

答え		問題番号				ユニット
問二		問一				
(2)	(1)	(2)	(1)			
B 生真面目	A 怠け者	D 生真面目な性分	C 気分転換	B できない	A 怠け者	
					新鮮・涼しげ・眩しい	
					B 糊の香り	
					A 白い夏服	
読解・基礎 4						

答え		問題番号		ユニット
問三	問二	問一		
(2) 他人を責めて	(1) 逆である	① ください	だから・ところが	
		② まい		
読解・基礎 3				

# 1 現代文・知識

○漢字・四字熟語

問一 ①「要旨」は「文章や話のだいたいの内容」という意味。「ヨウシ」と読む語にはほかに「容姿」「用紙」などがある。⑤「衰弱」の「衰」は「衰」と形が似ているので注意しよう。⑦「撤回」は「取り下げること」という意味。「撤」は「取りのぞく」という意味をもち、部首は「てへん」。手にかかわるという意味から「てへん」であると考えればイメージがしやすいだろう。「徹夜」などに使われる「徹」と間違えないようにしよう。

問二 ①「一騎当千」はひとりで千人の敵を相手にできるくらい強いこと。②「意気投合」は気持ちが合って仲よくなること。③「公明正大」は公平でやましいところがなく、正しくりっぱなこと。

○ことわざ・慣用句

問三 ①「狭い部屋だが、住めば都だ」などと使う。④「虎穴」は「虎のすむ穴」、「虎子」は「虎の子ども」のこと。

問四 ①「手を焼く」で「ある人や事柄に対して、とる方法がなく苦労する」という意味。②「木で鼻をくくる」で「冷たい態度で応対する様子」を表す。④「あげ足をとる」で「人の言葉の言いそこないなどをとらえて、責めたり、からかったりする」という意味。⑤「肩を持つ」で「味方をする」という意味。

# 2 現代文・知識

○抽象語

問一 ①「命題」はほかに、「解決を要する、課せられた問題」という意味でも使われる。④現在では政治的な考え方を表す場面で使われることが多く、「イデオロギーが対立する」などと使う。

おさえよう

③「ホシヨウ」と読む熟語には、「補償」のほ

かに、「保証(へ)人物や製品について、確かだとうけあうこと」、「保障(へ)ある状態がそこなわれないように、責任をもって守ること」などがある。使い分けに注意しよう。

問二 ①「客観」は「考えたり感じたりするとき、個々人の考えや感覚ではなく、多くの人がそうだと認めることができること」、「主観」は「1その個人の立場や見方に基づく考え・哲学」2外界のものとを知り、考えるは「たらしき」。②「演繹」は「すでに認められている一般的な原理を当てはめて、特定の事柄を論理的に導き出すこと」、「帰納」は「一つの具体的な事柄から、すべてに通じる法則などを導き出すこと」。

○敬語

問三 ウは先生の動作なので動作主を敬う尊敬語を、エは自分の動作なので自分の動作をへりくだる謙譲語を使うのが正しい。それぞれを正しく書き直すと、ウは「到着される・到着なさる」、エは「いただき(たい)」などとなる。

問四 ①「拝聴する」は自分の動作をへりくだって言う謙譲語なので、先生の動作に使うのは誤り。②③は自分や自分の身内の動作なので、話の聞き手に対して敬意を表すために、へりくだる言葉を使う。

# 3 読解・基礎

【出典】中西進「日本のカタチ」このころの風景から(産経新聞出版)

○接続語・副詞

問一 「だから」は、前を原因・理由にした事柄を後に続ける場合に使う。「ところが」は、前とは逆の事柄を後に続ける場合に使う。

問二 ①「ぜひ」は希望・依頼を表し、「〜たい」「〜ください」などが後にくる。②「よもや」は「まさか」と同じ意味で、否定の推量を表す「〜まい」などが後にくる。

○主語と述語の把握

問三(1)・(2) 一文から述語(述部)を探するときはその文中の後ろの部分、主語(主部)を探すときはその

文中の前の部分を、まず見てみよう。確かめるときは、主語(主部)と述語(述部)を続けて読んでみよう。

# 4 読解・基礎

○指示語の把握

【出典】植ふるみ「まだふみもみず」(幻冬舎文庫)

問一 「衣替え」について、筆者がどのように述べているかを読み取ろう。

◆前半の二つの段落(六月、…:包まれる。)

↓「衣替え」の日の情景

- ・一斉に白い夏服となる
- ・あ瞬間
- ・よどんでいた教室の空気が一変する
- ・鮮やかな新緑を映して、(夏服の)白が輝く(眩しいばかり)
- ・子供の汗の匂いが糊の香りに包まれる

＝ その日(「衣替え」の日)

◆後半の二つの段落(待って、…:涼しげなのだ。)

↓「衣替え」に対する筆者の思い

- ・待ってこそ 衣替え になる
- ＝ 待つ から、白が 新鮮、涼しげ

(1) 「衣替え」の日の様子を、空欄の前後の言葉に注目してそれぞれ探そう。

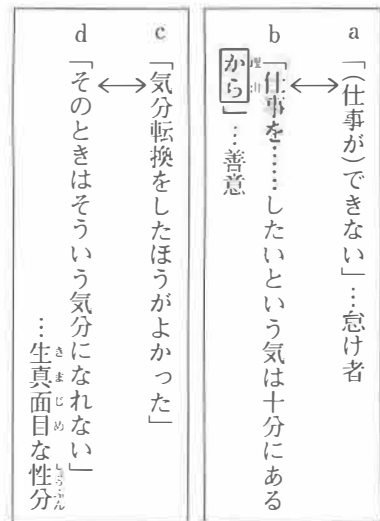
(2) 「よどんでいる」は、「衣替え」をする前の日までの教室の空気の様子なので誤り。

○要旨の把握

【出典】「出典」産経新聞(産経新聞出版)

問二 筆者は自分のことを「善意の怠け者」と言っている。「善意の怠け者」とは何かをしっかり読み取る。

(1) 最初の三文で、「善意の怠け者」を説明している。



図中の a が筆者が「怠け者」である様子で、b が、筆者が自分を「善意の」と言う理由。また、d について最後の一文で、親から「生真面目な性格」を受け継いでいるのだから、と説明している。

(2) (1)で解説した対比の関係に注目しよう。筆者が自分のことを言い表した「善意の怠け者」という表現は、一方で a のように「怠け者」でありながら、他方で d のように「生真面目」だということを表している。

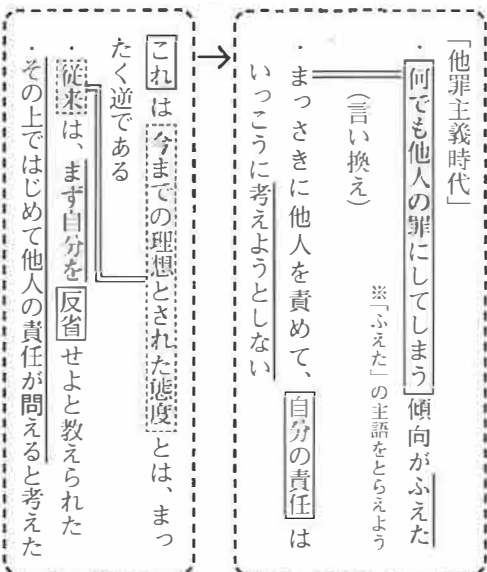
# 5 現代文・読解

【出典】中西進「日本のカタチ」このころの風景から(産経新聞出版)

○評論読解

問一 長い文章でも、内容をとらえるときは部分ごとに整理して考えていこう。

「他罪主義時代」と「今までの理想とされた態度」は、問一 の図の中で逆向きの矢印で結ばれていることからわかるように、逆の内容となっている。また、「他罪主義時代」から出ている矢印の先は、「他罪主義時代」の説明になっている。この関係をおさえて考えよう。



本文2行目の「ふえた」の主語に注目して、どんな「傾向がふえた」のかをまずとらえよう。この内容は、本文3行目以降でさらに説明されている。「他人を責め、」の後に続く、空欄Bに入る語句を本文中から探そう。

次に、逆向きの矢印で結ばれた二つ目の囲みの中は、「今までの理想とされた態度」を説明したもの。本文中に「これは...まったく逆である」とあるよ

うに、その前の内容とまったく逆の関係にあるのが、「今までの理想とされた態度」だから、「他人の罪にする」「自分の責任を考えない」とは正反対の内容を考えよう。「今まで」と「従来」が同じ意味を表すこともおさえておこう。

問二 本文8行目に注目しよう。

「なぜこんな時代になったか」

とにかく「自己主張をすることが大事」という教育の結果である

自我の目覚め、ディベートの訓練

「それら」が明治時代から戦後にいたる教育目標だったからだ

↓こんな時代になった

教育目標に原因があるという内容のイが正解。ア・エは「他罪主義時代」になる前の日本の様子なので誤り。ウの「共生」は、「他罪主義」という結果におどろいて「共生などという……助けをかり」とあるので、「他罪主義」に対立するものである。

問三

(1) 「やさしい」「やさしさ」については、傍線部②の前の部分で述べられている。ここでは、

「自分を卑下し、他人を尊敬する気持ちが『やさしさ』だった」

「自罪主義を現すことばが『やさしさ』である」ところが

「世の他罪主義への移行と同時に、『やさしい』ということば自体も変わってきた」

と、もとの「やさしい」ということばは「自罪主義」を現すことばだったことが述べられている。これに対して、傍線部②にある「やさしい」の意味は、他の事物や他人を下にみた言い方(他人を見下す言い方)だとわかる。

つまり、筆者の述べている変化とは、「やさしい」ということばが、他罪主義という考え方への移行とともに、正反対の意味になったということ。この内容に合うのはウ。アは「時間がたった」、イは「立派

な人がいない時代になった」、エは「使われなくなるような時代になった」が、それぞれ本文にない内容で、誤っている。

(2) (1)の解説で見たように、筆者が傍線部②の変化の原因と考えているのは、世の中が「他罪主義に移した」ことである。

問四 この文章では、本文29行目に、「他罪を考える前に自罪を考えよ」とあり、そのために「ほんとうの『やさしさ』をとり戻す必要がある」と述べている。このような主張をおさえているエが正解になる。アは内容的には本文に合っているが、「やさしさ」をとり戻す必要があるという筆者の主張をおさえていない。イ・ウは「やさしい」ということばについての主張になってしまっており、また、本文に書かれていない内容である。

ポイント

○筆者の主張は文章の前の部分にある場合もある。覚えておこう。

(例)

皆さんは歩くことについてどう考えているだろうか。私は歩くことはよいことだと思

歩くことには、まず、運動になって健康に良いという利点がある。また、短い時間の移動であつても、歩くことによつて、外の新鮮な空気を吸ったり、緑を見たりして、気分転換ができる。

※このような文章の場合、最後にもう一度、結論(ここでは「歩くことはよいことである」)を述べることもある。